

愛恵だより

2021年9月1日発行

発行：公益財団法人 愛恵福祉支援財団
〒114-0015 東京都北区中里 2-6-1 愛恵ビル5F
電話：03-5961-9711(代) / FAX：03-5961-9712
<http://www.aikei-fukushi.org/>

「愛恵」の題字は初代理事長 三吉 保 氏による

地 域 に 生 き る



社会福祉法人 興望館
館 長 野 原 健 治



愛恵福祉支援財団のS氏が本年7月1日、興望館を訪問された。Sさんは、「興望館は地域に根ざしている」という感想とエピソードを話された。「今日、曳舟の駅を降り、通りに出たところで小学1年生位の子に『興望館はどこ』と尋ねると、『あっちだよ』と指さして教えてくれた。数年前の訪問の際は、手前の駅で降りてしまい、出口は出たものの全く見当がつかず、困り果ててうろろしているところ、10代のお嬢さんに行き合い、試しに尋ねてみたところ、『興望館なら私もその方向だから案内してあげます』との返事が返ってきた、道すがら、自分が興望館保育園卒業であること、小学生になってからもピアノ教室に通い続けていることなど、話してくれた」と。この2つのできごとは、たまたまのことであるかもしれないが、Sさんが「興望館が地域に根ざしている」という確証につながっている。

さて21年前、近隣小学校の校長先生が、興望館玄関門の脇にある事業案内板をご覧になっていた。少しつながりもあるので声をかけてみると「興望館はセツルメントですね。セツルメントは懐かしい、私が教員になって、初めて赴任した学校の近くにセツルメントがありました。その学校の生徒、保護者に出身者が多く、学校生活、行事等にその影響が出ているように感じました。PTA

活動が盛んで、それは、本当によい集まりでした。愛恵学園近くの小学校、それが私の教師生活の出発点です。」とおっしゃった。その後、この校長先生はある特別区の教育長になられた。

Sさんには来館のついでに興望館セツルメント資料室に寄っていただいた。所蔵の愛恵学園記念誌を案内の職員が偶然見つけて、3人で見ることになった。昔の写真がたくさん載っていた。女子中学生達の賛美歌練習、発表会ふうのコンサート、キャンプ風景、園舎等、驚いたことに興望館の活動と瓜二つである。セツルメント活動の均質性を思った。

団体にとって、地域に根ざすとは、地域の人の心の中に生きることである。地域の人々にとっては、それぞれの心に息づくほどあたたかく、洗練されたものの体験をもつということである。愛恵学園は、セツルメントをルーツとした福祉支援財団としての道を歩み続けている。興望館は、セツルメントとして児童福祉への取り組みを今後も続けてゆく。地域の人々のお役に立てるよう、自らの心を耕し、技術を身につけ、組織を新たにして、未来に向かいたいと思う。（愛恵福祉支援財団 評議員）

※社会福祉法人興望館は、東京都墨田区で保育園と児童厚生施設、長野県軽井沢町で児童養護施設杏掛学荘を運営している。

愛恵 時の刻み

業務執行理事 杉浦孝夫

2012年4月。新しく認定された公益財団法人として活動が始められたことに喜びと、安堵した瞬間だった。

一方で「20年後、財団はどんなかたちで存在しているだろうか。」という思いがよぎった。

今回、「愛恵」の刻んだ時を概略的にとらえてみた。

1930(昭5)年12月、愛恵学園は東京足立区に設立された。乳幼児を育てること、健全で健康な環境を作ること、青少年の心の拠りどころを確立すること、保護を受けていない者や悩み苦しむ者を救済する、ことが目的であった。

図書館がつくられ、ナースリー・スクール、幼稚園さらに救済部、未就学児童補導事業が行われた。(愛恵学園活動の詳しいことは『愛恵学園物語』として著書が出版されている。*)

1942(昭17)年には、財団法人に認可されている。

1989(平・元)の間ほぼ60年に及んだ事業であったが幼児の減少、職員の高齢化、経営の困難化等、また足立区が地域活性化の拠点として学園の環境を求めているので財産の一切を譲渡し学園の解散を決議した。

1990(平2)年7月 東京都で基本財産の処分が承認され、寄付行為に則り類似団体を10か所、ミッションスクール等に財産を贈与し解散することを主務官庁の東京都に承認を求めたが、当時の経済情勢が混乱していたためか、この時期に社会福祉事業を推進してきた団体として選択すべき最善の方法であろうかとの指摘を受けた。

1995年、結局、10団体のうち幼児保育事業の2団体への寄付は承認されたが他8団体には、これら団体及び教育関係への助成を目的とする新財団を作り対処すべきと要請された。

教育支援には公益信託を利用することも考慮してみたらどうかの意向が示された。

1996年 新財団設立にあたって、愛恵学園の類似団体として承認され基本財産の寄付が認められたが公益信託「ペイン記念教育基金」は類似する寄付行為に適さないとされた。

当初は再び事業を起こすことは考えておらず設立にあたっては事業の組み立てに苦慮したが愛恵学園の乳児健康相談(のちに祖父母の会として老人医療にとりくむ)、育児・託児(のちに障害児保育)及び隣保事業(両親の会を通して各種相談に応じる)を今日的に置き換えてみると、高齢者対策であり、幼児対策であり、障がい児対策と考えられるものとし、これらは地域福祉の展開にあたって、東京都がその基本方針として打ち出している次の点に合致するものであると理解し事業の骨子とした。

1. 少子高齢化に対応したしくみづくり
2. 高齢者や障がい者などが安心できるくらしの確保
3. 安心して子どもを産み育てられる環境づくり

財団法人愛恵福祉支援財団の設立には、あくまで財団法人格を守り、上述のような事業を現に行っている民間社会福祉施設のさらなる充実と発展を図るため、助成・援助という補完的役割を担い東京都民の福祉の一層の向上に寄与するための財団設立を東京都に申請した。

1998年10月1日、財団法人愛恵福祉支援財団の設立が許可された。

愛恵学園解散の決意から新財団設立に至るまで財産の処分、新事業の方向性、行政の在り方などによって紆余曲折をへて合意を得るまで10年を経過していた。

新「愛恵福祉支援財団」は海外研修、講座講習・講演会開催、助成事業、福祉啓発にエッセイ公募事業をもって東京圏を対象に10年間活発に活動を展開した。

2002年3月以降、公益法人の内部統制の強化、充実を図るための改革法案が検討され2008年12月より新公益財団法人制度がスタートすることになり、移行期間5年間で決定された。

制度に対応するため2010年移行準備会を設置し、組織形態の見直し、寄付行為を定款としての見直し、公益目的支出計画等の作成をもって、2011年12月内閣府に公益財団法人への移行申請をし、2012年3月28日内閣総理大臣により認定された。

公益法人申請にあたり、定款には目的と事業について以下のように定めた。

(目的)

キリスト教精神に基づき、すべての人々の健康で文化的な生活を維持できるように、相互の助け合いによって、豊かな福祉社会の建設に寄与すること。

(事業)

1. 社会福祉の担い手の育成
2. 福祉意識の啓発
3. 社会福祉活動への助成
4. 奨学金の給付
5. 施設の貸与

その他この法人の目的を推進することに資する事業

2 前項の事業は本邦及び海外にて行う。

公益財団法人は前財団からの移行のため、ほとんどの事業は引き継がれているが、「奨学金の給付」など新しい事業も加えられた。

本年(2021年)度は公益財団法人として10年目の年度になる。昨年コロナ禍にあり、回復の時期は予想できない。事業も大幅に制限されている。社会情勢は経済的影響などによって分断や差別が顕在化されることが危惧されている。

コロナ後の社会を見据えて対応を新しくするときでもある。向こう10年で愛恵学園設立後100年の時を刻む。

*「愛恵物語」は本誌4ページにご案内しています。

2021年度の事業として、経済的に困窮して学業継続に困難をきたしている社会福祉を学んでいる学生に緊急支援をしています。



コロナ禍と学生の困窮・精神的困難、学業継続の課題

都 築 光 一 ペイン記念奨学金選考委員
東北福祉大学教授

今、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で、多くの大学生の学生生活が危機に瀕しております。

学生は通常、親からの仕送りや扶養の下で授業料を賄っています。加えて学生の多くが、アルバイトに従事し、授業料と家賃を仕送りに頼っている事例や、貸与型奨学金等によって賄っている事例もあります。

これが新型コロナウイルスの感染拡大によって、大きく崩れました。第一に学生のアルバイトが激減しました。学生アルバイトの就業先の多くは、居酒屋や大衆食堂、コンビニエンスストアなどでした。時間短縮の要請や休業要請により、アルバイトの就業先を失った学生が大量に発生しました。第二にコンビニエンスストアなど、アルバイトが可能な状態にある学生であっても、「ステイホーム」の要請でシフトから外れ、代わりに休業した社会人がこれを補充することによって、アルバイト先を失った学生も出現しました。加えて第三に親が失業した

り、就労時間の短縮や自宅待機などによって、仕送りや自宅での生活が急激に厳しくなった事例も見受けられるようになりました。

しかし何より深刻なのは、通常であれば学生の仲間同士による情報交換や励まし合いなどのほか、我々教員が相談に応じたりなどにより、様々な工夫を凝らしたりタイムリーな対処策などが講じられるものの、今は感染防止対策からキャンパスが閉鎖されていることによって学生同士の交流が全くないほか、教員との相談もスムーズに実施できかねたことから「金品および情報が枯渇した孤独な学生」が大量に出現してしまいました。

若者は、社会の希望です。その希望の灯火が揺らいでいるとき、灯火を見つめている者が、灯りをしっかり希望に繋ぐ必要があります。愛恵財団の取組みによって、多くの学生が希望を持たれたことは、感謝の限りです。

社会福祉の学びの志が無事に達成できるように

愛恵福祉支援財団事務局

コロナ感染は拡大し終息の兆しが見えない状況が続いていますが、文科省の調査や大学関係者の情報から社会福祉を学ぶ大学生にも計り知れない影響が出ていることがわかりました。そこで、理事会では現在、社会福祉などを学んでいる3、4年生で、コロナ禍の影響を受けて困難に直面している学生に対して緊急支援を考えました。早速ペイン記念奨学金（全国の社会福祉系の指定大学院の院生に対して支給）を募集している大学の学部生を対象に募集しました。申請理由書からは学生の困窮状況は想像以上のものでした。

2020年度には日本学生支援機構の緊急支援がありましたが、申請に至るまでの手続きのハードルが高く、申請をあきらめる学生もいたとのことでした。当財団の緊急

支援は自己申告とし、大学での指導教官等の推薦書をつけてもらいました。学生が困窮に陥っている原因は圧倒的に学生のアルバイト先である飲食業の事業継続困難状況の影響をもちに受けた結果です。学生たちはこれまでも大学生活は日本学生支援機構の奨学金とアルバイトで学業を進めている学生達でした。このような緊急時には家族の支援を期待しますが、家族の上にも困難な状況が起こっており、支援は期待できないこともわかりました。

この緊急支援によって社会福祉の担い手としての志を立て、勉学をしている日々が、しっかりと将来へ繋がっていかれるように、愛恵の財が有効に用いられることを願っています。

読むことが困難な人々への読書支援

講座・講習事業 ボランティア養成講習会～第2弾

2017年度から、(公財)愛恵福祉支援財団と(公財)東京YWCAとの共催による「音声デージー製作講習会」「マルチメディアデージー製作講習会」「音訳講習会」を企画しています。

音声デージー製作講習会及びマルチメディアデージー製作講習会については、DAISY TOKYO 森田總子先生の全面的なご協力をいただき、音訳講習会は、講師に音訳指導者の高橋久美子先生を迎え開講しています。いずれの講習会も定員いっぱい、抽選から借しくもはずれてしまった方が次年度に再応募されている方もいます。

受講者は所属している活動グループがある方もいますが、中には自分の子どもが苦勞してきた体験からマルチメディアデージー図書を知り、是非習得して少しでも助けになればと受講した方もいます。受講動機はブラッシュアップのためや基本をしっかり学びたい、今後の活動を広げるための技術習得、多様で幅広い方のサポートにつながるのでは…と期待の声が大きいです。

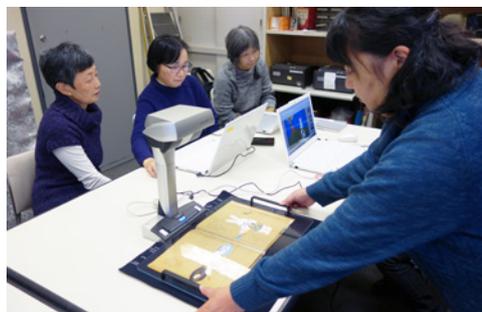
マルチメディアデージー図書の特徴は、読んでいる所をハイライト(色を変える)しながら、同時に読み上げるので読み飛ばしがなく、文字の大きさ・読み上げる速さ等自由に変更できるので自分の読みやすいように設定できます。目次から読みたい章や節、任意のページに飛ぶこともできます。1つのリソースで、違う特性の人達が自分に合った形で利用できるのも、まさに「読むことが困難な人々への支援」が可能です。

受講者は、20歳代～70歳代とかなり幅広いです。音声デージーやマルチメディアデージーは、パソコン操作ができる方でそれぞれの製作にご興味やご関心がある方であれば受講可能です。音訳講習会は音訳にご興味がある方であればどなたでも参加できます。

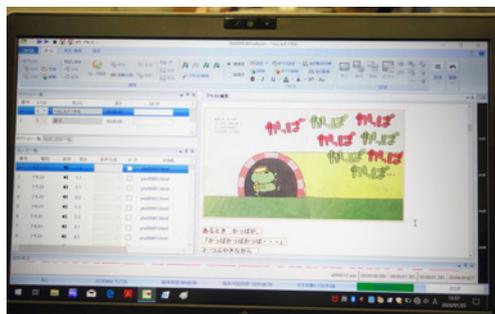
東京YWCA 職員 眞壁智未

マルチメディアデージー図書ができるまでの過程の一部を紹介します

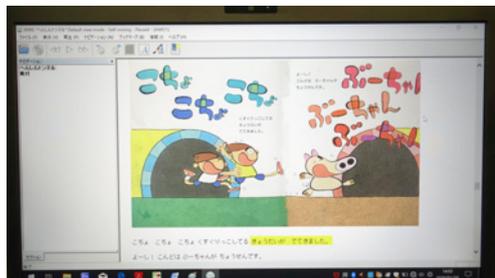
Step1 絵本をスキャナで取込む



Step2 専用ソフトを用いて編集



Step3 読んでいる部分が反転。一目瞭然



「愛恵学園物語」

—その五十年の足跡

三吉 保

(本文 353 ページ・資料付)

ご希望の方は事務局までご連絡下さい。

愛恵福祉支援財団 案内図

JR駒込駅 東口より徒歩2分
北区中里2-6-1 愛恵ビル5F
電話 03(5961)9711

